

[009] 中国文学論集表紙奥付等

<https://hdl.handle.net/2324/9878>

出版情報：中国文学論集. 9, 1980-11-01. 九州大学中国文学会
バージョン：
権利関係：

編集後記

われわれ九州大學中國文學會が、最近一年間の研究活動の一成果として、ここに本論集第九號を上梓することができ、喜びに堪えない。但し本號が毎年春に刊行されるという本来の姿をとりえなかつたこと、遺憾としなければならぬ。というのは、特に若い研究者の場合、四月の新學期が始まるまでの春季休暇中に本論集のための論稿に集中して取り組み、夏季休暇には次の新しい研究に取り掛かることができると思う若輩編集子の老婆心があるからである。

さて、本號には、卷頭論文として饒宗頤先生の「唐勒及其佚文」を掲げる。これは、日本學術振興會の招請を受けて來日された饒先生が九州大學で特別講演をなされた折の原稿を戴いたものである。佛國政府から中國學の權威として「儒蓮賞」をお受けになるなど、ご高名な饒宗頤先生が、われわれ後進の學徒のために、わざわざ原稿まで作って御講演下さったことは、まことに有難いことであつた。ここに、編集子は僭越ながら本會員諸氏に替わり、饒先生に對し厚くお禮を申し上げる。

ところで、この一年間における本會の活動を回顧して、特に感慨深いことは、彙報にも紹介したごとく、年間必定五回開催する中國文藝座談會の研究發表が、すでに七十回を越えたことである。編集子を含め後進の學徒たちはすべて、この文藝座談會における研究發表を學問上の出立點としている。言はば文藝座談會はわれわれの研究の母胎である。後進のわれわれの研究にも「生れ出づる悩み」があるとすれば、かつて本會を生み出し育てた先輩諸氏

には正に陣痛の苦しみがあった。願わくば、先輩となく後輩となく、今後もまた従來に譲らず、眞摯な學究研鑽の成果を積極的に發表して、中國文藝座談會を更に一層發展させていきたいものである。

(藤井良雄記)